

## 第7回 国立環境研究所琵琶湖分室セミナー

### 「モンゴル遊牧民による自然資源の利用と課題」

日時：2017年11月20日（月）15：00-16：00

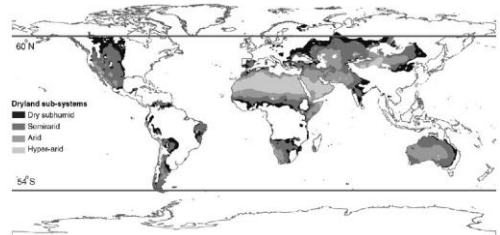
セミナー講師：小長谷 有紀（人間文化研究機構／国立民族学博物館）

モンゴル国の統計によれば、2015年現在、世帯単位で25パーセントが遊牧民である。彼らは家畜の放牧を通じて草地を利用している。社会主義時代に定着化が進行し、移動距離は小さくなったものの、宿営地を季節的に移動させることによって、草地の保全を果たしてきた。しかし、市場経済に移行すると、首都への集中や頭数の増加により、草地の劣化が進行した。近年では、馬に代わってオートバイでの放牧が一般的となり、劣化はさらに著しい。伝統的に面積の単位がなく、土地所有権もなかった自然利用のあり方は危機的な局面を迎えている。

# モンゴル遊牧民による 自然資源の利用と課題

小長谷有紀 (こながやゆき)  
人間文化研究機構 / 国立民族学博物館  
20171120 @ 国立環境研究所琵琶湖分室

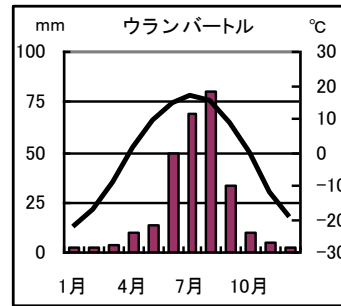
## 乾燥地域の区分



## モンゴル国



## ウランバートルの気温と降水量



## モンゴル国と中国内蒙古自治区



## 2011. 8 @ モンゴル国



## 2000年ごろ@中国内蒙古



## 内蒙古自治区における農耕化



図1 内蒙古自治区における土地利用

## 内蒙古自治区における都市化



図2 内蒙古自治区における都市集落

## 人口密度の差

モンゴル国(2013)

1.83人/平方キロメートル(首都含む)

中国内蒙古自治区(2013)

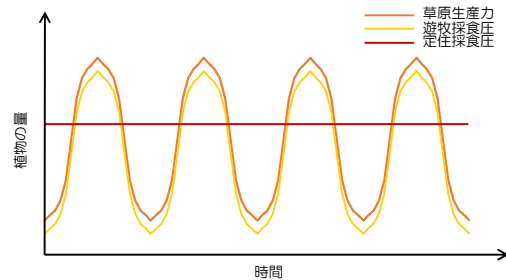
23.4人/平方キロメートル

## 砂漠化@中国内蒙古自治区

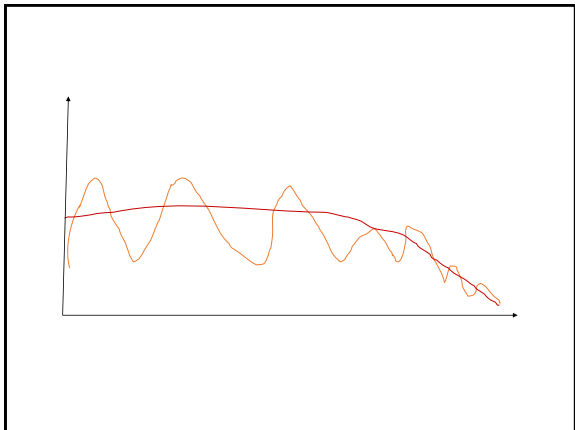
原因その1)  
「過放牧」<過人口

原因その2)  
定着化>「温暖化」

## 草原植物群落の生産力及び採食圧の関係模式図



By Nachinshonhor G.U.



### 中国内蒙古における禁牧政策

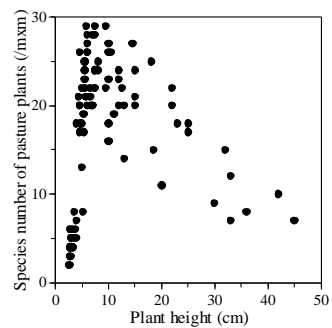
完全移住～一時的舎飼い

一年間のうち冬期の舎飼いを強制  
数年間実施

2013.10@中国内蒙古



### 草原植物の草高と種多様性©藤田昇



### 草原だって「里山」

適度な圧力により、多様性が確保されている！

さしずめ、家畜は芝刈り機&種まき機

### モンゴル高原の社会環境

#### 1) オアシス社会の不在

自然堤防の後背湿地を使った小規模な農耕はおこなわれていたけれども、山麓沿いに連続するオアシスはない。

#### 2) 市場の不在

贅沢品との交換をおこなう隊商貿易はおこなわれていたけれども、日常的な交換市場はない。

### 家畜の雌雄比(20世紀初頭)

	成メス	子	成オス	雌雄比
ウマ	40	35	25	58:42
ラクダ	30	49	21	55:45
ウシ	45	40	15	65:35
ヒツジ	40	48	12	64:36

### 牧畜経営の3つのタイプ

地域	家畜の性別	商品化率	経営戦略
アフリカ	ほとんどメス	自給的	生存経済
西アジア	主としてメス	商品化	商品経済
モンゴル	メスと去勢オス	自給的	軍事経済

### 「去勢畜文化」という特徴

- ウマ = 世界最速の乗り物  
時速60キロメートル?
- ウシ = 世界最強の曳き物  
積載能力300キログラム?
- ラクダ = 冬季のウマ・ウシ代わり
- ヒツジ(ヤギ) = 歩く冷蔵庫  
(ただし、19世紀まで)

### 2011年@モンゴル国



### 草原は‘軍需工場’

- 1) メス家畜を育てる  
生存経済を維持するための資源
  - 2) 去勢オス家畜を育てる  
軍事行動を実施するための資源
- (ただし19世紀まで)

### モンゴル遊牧の特徴

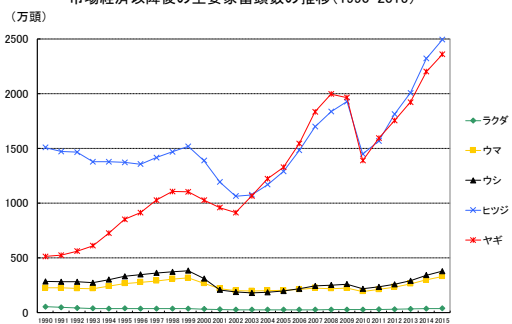
- 1) 移動性の高さ  
自然環境に応じて: 移動しなければならない、あるいは移動したほうがいい。
- 2) 去勢畜の多さ  
社会環境に応じて: 売る相手がいない。  
自然環境に応じて: オスを殺さなくてもいい。

## 家畜の平和利用の時代

20世紀から  
近代化＝社会主義化

- 1) 去勢オス家畜の商品化
- 2) 去勢オス家畜からの畜産物の商品化
- 3) メス家畜からの畜産物の商品化

市場経済以降の主要家畜頭数の推移(1990-2015)



アルハンガイ県中心地付近



ウギー湖畔泊



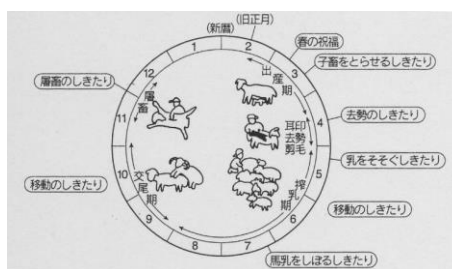
馬からバイクへ

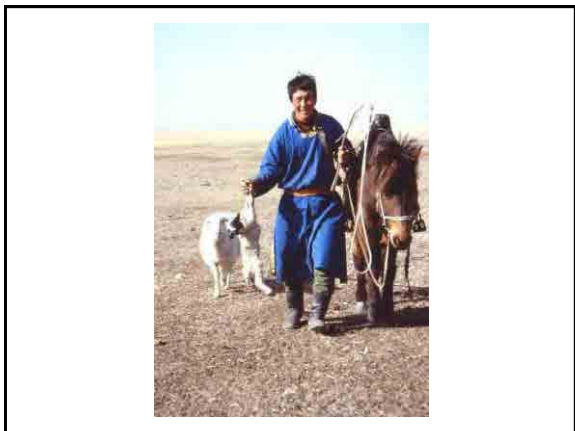


馬の売却 (2017はとくに干ばつのため)



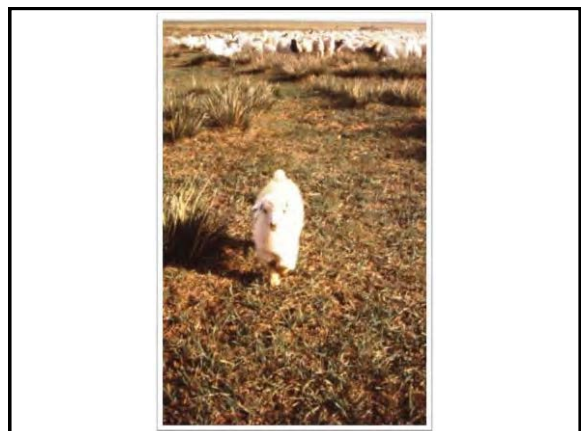
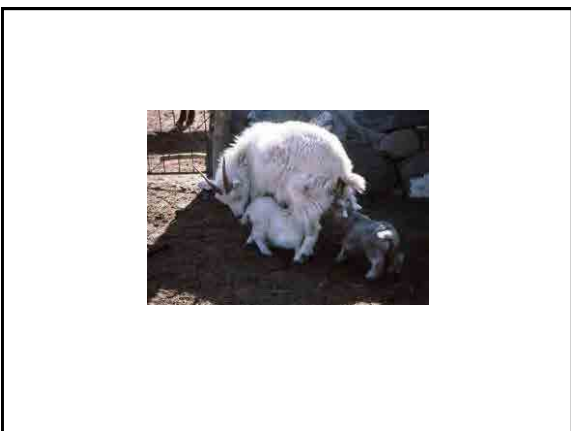
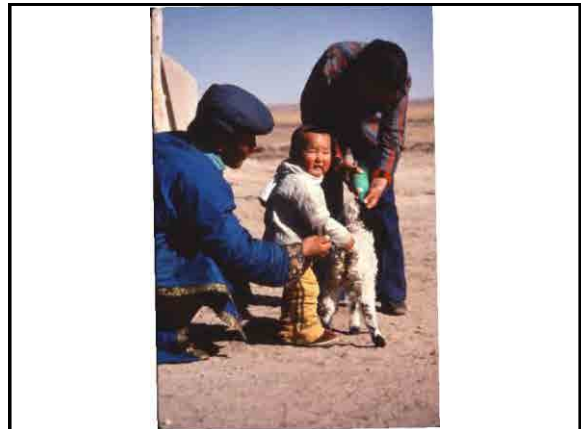
一年の牧畜暦













## 2つの重要な鍵概念

『狩猟と遊牧の世界－自然社会の進化』 講談社学術文庫 梅  
棹忠夫 (1976)

- 1) 牧畜革命
- 2) 牧畜成立の画期的技術

## 牧畜革命

農業革命や産業革命に匹敵するほど  
牧畜の成立は人類史上の画期的な意味があるという指摘

→乾燥地域への生活領域展開

## 牧畜成立の画期的技術

- 1) 搾乳の技術  
メスの乳を拝借して食料を得る方法
- 2) 去勢の技術  
オスによるメスの取り合いという群れの  
分裂をふせぎ、群れとして維持する方法

→いずれも、動物を殺すことなく食料資源化  
牧畜以前の狩猟との根本的な違いゆえに  
「画期」的である

## いつ、どこで？

Richard P. Evershed et al.  
Earliest date for milk use in the Near East and southeastern  
Europe linked to cattle herding  
*Nature* **455**, 528-531 (25 September 2008)

西アジア・紀元前7000年・土器・脂肪酸の分析

参考文献：平田昌弘『人とミルクの1万年』（2014）の31頁

## 家畜化プロセスのなかの搾乳

谷説のような精緻なプロセスを500～1000年間のあいだに考  
古学で証明することはできない。

現在では<家畜化のなかの初期段階>

<家畜化≒搾乳化>

<牧畜革命≒搾乳革命>

搾乳のもつ意味がより一層高まった。

梅棹の鍵概念が統合された。

## 家畜化プロセスのなかの搾乳

従来は<家畜化のなかの後期過程>

群れの取り込みor個体の取り込み→群れの形成

→再生産サイクルの管理→子育ての管理→搾乳の発明

谷 泰 2010 『牧夫の誕生－羊・山羊の家畜化の開始とその  
展開』岩波書店

## 人類史における「共生」の始まり

動物を食以外に利用する  
食材として利用する

- 1) 狩猟 = 殺して肉や毛皮を利用する
- 2) 殺さない利用 = 搾乳





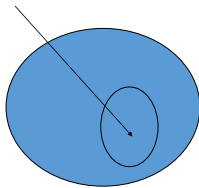


モンゴル3大「牧畜儀礼」

	時期	実施対象	儀礼対象
搾乳儀礼	夏の開始	♀	初産の♀
去勢儀礼		♂	-----
屠殺儀礼	冬の開始	♀+♂	老いた♀牛

## 去勢儀礼の特徴

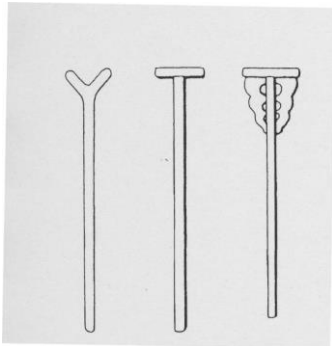
- 1) 実態調査が十分に可能
- 2) ただし、実態は伝承の一部



## 去勢儀礼に使われる道具

- 1) 作業用の道具  
ナイフ・バケツ等
- 2) 作業に直接関係のない道具  
矢・穀類・棒(bagana)

## バガナと呼ばれる柱のような棒



## モンゴル婚姻儀礼の特徴

問答応酬: 拒否儀礼(儀礼的拒否)

↓

↓

棒跨ぎ: 承諾儀礼(儀礼的承諾)

∴ 棒=結界=「家系」の象徴的境界

## 儀礼による家畜化

家畜化=domestication  
野生動物→「家動物」化  
From 自然界→ To 人間界

棒(bagana)跨ぎ=自然界→人間界

## 3大儀礼の相互連関

	人間介入	自然状態	祈願	利用
搾乳儀礼	(育児支援)	出産	♀増殖	乳
去勢儀礼	性管理	♂	家産化	役畜
屠殺儀礼	殺害	死亡	♀増殖	肉



## モンゴルにおける家畜利用

1) 乳の利用: 自然からの借用

2) 肉の利用: 自然からの借用

3) 役畜としての利用: 人間化=家畜化